

## 県北部地域・職域連携推進協議会報告 ～たばこ対策～

○本武明子（日向保健所） 片平久美 日高良雄（延岡保健所） 太田尾香代子（元延岡保健所） 押川裕衣（県立日南病院） 銚之原純子（高千穂保健所）

### 1 はじめに

宮崎県地域・職域連携推進協議会は、その要綱に地域保健と職域保健の連携により、生涯を通じて継続的な保健サービスの提供体制を整備することを目的とし、保健・医療・行政・職域・住民等多数の関係機関団体の委員で構成されている。

平成 21 年度、県北部地域・職域連携推進協議会（以下、協議会）では、①たばこ対策②若い世代の特定健診受診率向上をテーマに、協議会 2 回、保健部会 2 回を開催し、協議を重ねた。

今回は、「たばこ対策」について協議した内容を報告する。

### 2 協議内容・結果

第 1 回協議会：平成 21 年度特定健診及び事業所健診・保健指導の振り返りを行い、健診受診者 40 歳以上の男女別喫煙率を比べたところ、以下のとおりであった（図 1）。延岡・西臼杵地区において、健康みやざき行動計画 21 のたばこ対策をより効果的なものとするため、部会にて協議を進めることとした。

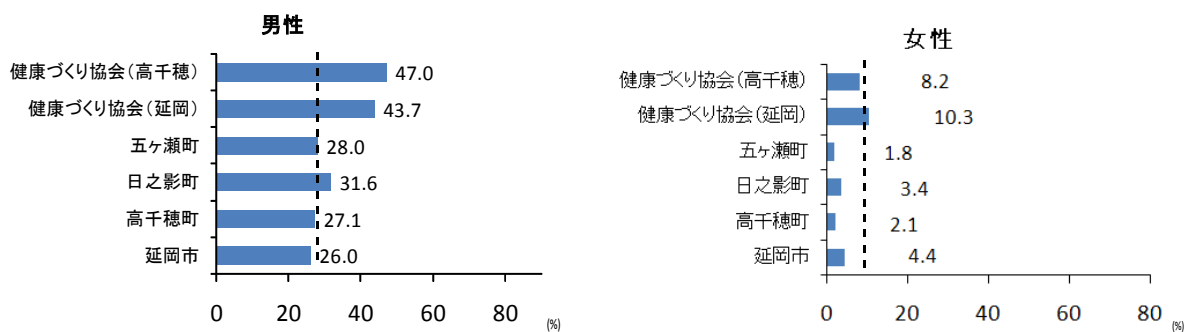


図 1 特定健診・事業所健診受診者の喫煙率（男女別）  
\* 縦点線は、平成 16 年度県民健康・栄養調査における直近値

第 1 回保健部会：部会メンバーが喫煙問題により関心を持ってもらうため、日之影町保健師を中心とした「ニコチン監獄」をまず紹介して歌ってもらうなど、会議の場の盛り上げと協議しやすい雰囲気作りを行った。

その後、グループワーク形式でたばこ対策を推進する上で必要な課題を出し合った結果、表 1 に示すような多くの項目がまとめられた。

第 2 回保健部会：表 1 の項目について、優先順位と実現可能性の高い事業を分析した結果、ポピュレーション・ストラテジー（集団全体で、健康障害の危険因子を下げる戦略）を目的とした禁煙啓発用具として「封筒に禁煙を呼びかけるワンポイントシールを作成」することに決定した。また、用いる標語も委員から募集することとした。

その結果最終的に、シールよりも安価で繰り返し使用できるゴム印を作成することとし、標語も「勇気を出して禁煙宣言！」（写真1）となった。

なお、作成したゴム印は、協議会及び保健部会に携わる団体へ配布し、各委員を中心に職域で活用していただくこととした。

また、今回実現できなかったが、実現可能性が高いと考えられる「禁煙サポーターの養成」についてさらに検討を行うこととなった。

表1 グループワークで出された、たばこ対策案（抜粋）

- ・禁煙サポーターの養成
- ・禁煙レストランガイドの作成
- ・職域にて禁煙手当の導入
- ・職場内禁煙大会
- ・禁煙ウォークラリー
- ・たばこ料金の引き上げ
- ・封筒に禁煙を呼びかけるワンポイントシールを作成



（写真1）

#### 4 考察及びまとめ

ポピュレーション・ストラテジーは、第1次予防や健康増進を主体とした考え方であり、個人個人の働きかけよりも集団全体への働きかけに重点を置き、集団全体の生活習慣の改善・変容を目指すものである<sup>1)</sup>。

今回、協議会及び保健部会で、県北部地域・職域におけるたばこ対策の必要性を共通認識してグループワークを重ね、協議会全体としてたばこ対策のポピュレーション・ストラテジーを推進することが出来た。また、成果物としてゴム印を作成し配布したことで、各職域における推進が期待できる。

今後はさらに標語を住民から募集したり、「禁煙サポーターの養成」を行うことで、更に効果的な対策を進めていく必要がある。

しかし、ポピュレーション・ストラテジーは個人個人への恩恵は目に見えにくいという点がある<sup>1)</sup>。今後は、協議会委員にアンケートをとる等行い、事業効果を客観的に評価していく予定である。

また、平成16年度県民健康・栄養調査の直近値において、喫煙が及ぼす健康影響に対して正しい知識を持っている人の割合が減少していることから<sup>2)</sup>、ハイリスク・ストラテジーに着目した事業を検討していく必要があると思われる。

#### <参考文献>

- 1) 水嶋春朔. 地域診断のすすめ方. 医学書院. 2004.2.
- 2) 健康みやざき行動計画 21 (改定版). 平成20年3月